

近森リハビリテーション病院 画像診断部

診療放射線技師 高橋 宏幸

要略

当院は令和2年度の改正法施行によりCT検査の線量記録とその管理が必要となった。それに対し、当院の検査件数と施設基準を理由として線量管理システムの導入を見送り、PCの表計算ソフトで記録管理をおこなっている。改正法に関連して、放射線画像検査線量説明書の更新や嚙下造影(VF)検査の患者や介助者の線量管理のために台帳等の改良を進めた。

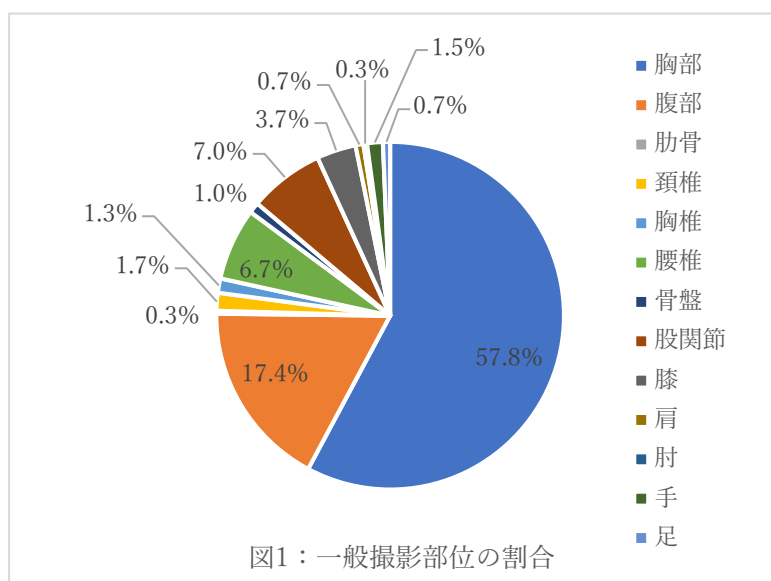
放射線機器は大きな故障もなく安定している。各検査件数は昨年より1割以上減少した。

検査件数

2020年の各検査件数に対する前年比は、一般撮影は-10.2%、単純CTは-15.8%、嚙下造影(VF)は-12.1%であった。表1に2016年から5年間の検査件数、図1に一般撮影の内訳、図2に単純CTの内訳を示す。

表1：検査件数

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	前年比
一般撮影	1511	1622	1641	1575	1415	-10.2%
単純CT	938	909	896	878	739	-15.8%
嚙下造影(VF)	504	553	530	538	473	-12.1%



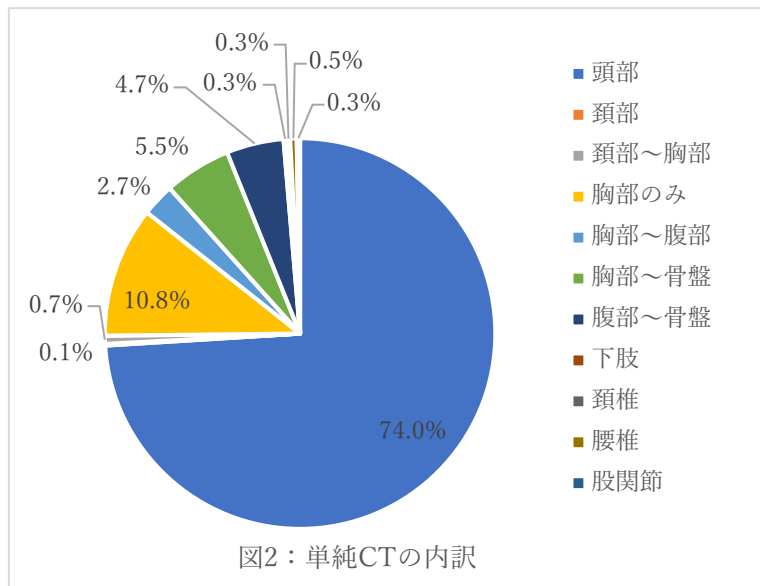


図1：一般撮影部位は、胸部と腹部で約75%を占め、昨年とほぼ同じ割合であった。

図2：単純CTの割合は頭部で前年より2%の微増、胸部を含むCT検査は昨年と比べ4%減少している。

放射線医療機器関連

両装置も大きな故障はない。

16列CT装置は昨年と同様の立上げ不良が5回発生したが再起動で対応できた。ウインドウズのリカバリーが1度起動したのでハードディスク系の不良が予測される。画質の荒れ具合の目安になる信号雑音比(SN比)は、毎月行うユーザー点検で大きな変化はみられない。

X線TV装置(一般撮影装置)でメーカー対応の故障は、保守内処理によるフラットパネルトレイのバネ交換と画質調整のキャリブレーションであった。その他、モニター端子の接触不良などのユーザー対応で済むものであった。

新人教育

近森会グループには3名の入職があったが、当院での実習はまだない。

診療用放射線の安全利用のための研修

当院の言語療法士24名は、6月16、18、23日の3日間で全員修了した。当院の医師6名、診療放射線技師1名は、近森会グループ内のイーラーニングにて2021年3月末までに終了を予定している。

来年の目標

2021年は、CT検査の線量記録と管理などの改正法に関する課題点の抽出と検討に加えて、放射線機器がより安定維持できるようにユーザー点検を一層強化する。